科目名		担当教員	
心理学実験ＩＡ		佐藤　俊人・大関　信隆 朝岡　陸	
科目コード	科目単位	履修方法	配当年次
FB2533	1	SR (実験)	1 年以上
生成 AI 利用レベル	レポート　：　C	試験（スクーリング含む）　：　C	

※２０１８年度以降に入学した方が対象の科目です。２０１７年度以前に入学した方は履修登録できません。
※２０１７年度以前に入学した方は、「心理学実験Ｉ」（科目コード：FB2505、 2単位、履修方法：SR）を参照してください。
※本シラバス記載の担当教員から他の福祉心理学科の教員に変更となる場合があります。

科目の概要

■科目の内容

心理学は行動科学の一分野であり、どのような条件の下でどのような行動が生じるか、あるいは、ある行動はどのような条件で起こったのかなどということを明らかにしようとしています。そのための方法にはいくつかありますが、実験法もそのひとつです。

科学的知識とは、客観的事実として実証されたものをいいますが、心理学では、特定の要因（独立変数とよぶ）を系統的に変化させ、意識や行動（従属変数）がどのように変わるかということを明らかにしようとする手法があり、これを実験法と呼んでいます。条件を厳密に統制するというところに実験法の特徴がありますが、「心理学実験ＩＡ・ＩＢ」では、さまざまな角度から、この実験法について、その基礎を学ぶことを目標とします。

■到達目標

１）心理学において「実験」という手法がどのように行われるのか説明できる。
２）「独立変数」や「従属変数」などの意味を説明できる。
３）「要因を操作する」や「条件を統制する」という行為の意味や意義を説明できる。
４）実験法という心理学方法論の特徴を説明できる。
５）基本的な心理学的実験を自ら計画して実施することができる。
６）実験で得られたデータを統計的に分析・考察し、レポートとしてまとめることができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「実証的分析力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

事前レポート評価 10%＋スクーリング（実験レポート）評価 90%

■教科書・参考図書

【教科書】（「心理学実験ＩＢ・ⅡＡ・ⅡB」と共通、2）は「心理学研究法 A」と共通）
１）高野陽太郎・岡　隆編『心理学研究法―心を見つめる科学のまなざし　第３版』有斐閣アルマ、2025 年
２）『福祉心理学科スタディ・ガイド〔第４版〕』東北福祉大学（第４版でなくても可）

（最近の教科書変更時期）2026 年 4 月

（スクーリング時の教科書）教科書は使用しません。実験に必要な資料を配付します。

（教科書配本方法）

教科書 1）：履修登録時に配本します。

教科書２）：【福祉心理学科】＝入学時に配本済みです。

【社会福祉学科・科目等履修生】＝通信教育部ホームページから閲覧してください。冊子版の配本を希望される場合は、履修登録後、本冊子巻末用紙の「教科書特例配本希望届（無料）」をご利用いただき、郵送または FAX（または同様の内容を記載して ugr@tfu.ac.jp 宛にメール）でお申込みください。

■単位修得方法

①事前レポート（客観式 1 課題）解答・合格＋②スクーリング受講＋③実験レポート（２つ）提出・合格で単位を修得します。

① 事前レポート（客観式 1 課題）解答・合格：スクーリング受講前に、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

② スクーリング受講

会場スクーリング：２日間連続で受講してください。

オンデマンドスクーリング：受講期間内に受講してください。

③ 実験レポート（２つ）提出・合格：２種目それぞれの実験において指示された内容について、実験レポートをスクーリング中、またはスクーリング時に指示される期限までに提出して合格することが必要です。１種目でも欠席しレポートが提出されない場合にはその時点で単位が与えられなくなるので気をつけてください。

※ 実験レポートの評価は、心理学的なレポート構成が厳守されているか、記述が客観的であるか、実験方法がきちんと書けているか、結果を明確に述べているか、考察が理論的であるか、について行います。これらの書き方はスクーリング中にご紹介しますので心配無用です。

※ 実験レポートは返却しますが、添削指導は行いません。

■受講上の注意

実験科目については、「心理学実験ＩA」または「心理学実験ＩB」から受講が望ましいですが、「心理学実験ⅡA」または「心理学実験ⅡB」からの受講も可能とします。「心理学実験ⅡA・ⅡB」から受講する場合の留意点は、各科目の【受講上の注意】を参照してください。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

理科の実験を思い出してみてください。リトマス試験紙に酸性の液体をつけると…？　アルカリ性の液体をつけると…？　理科ではある刺激を加えるとどのような結果が生じるのかについて実験を行いました。心理学も同じです。講義でみなさんに何気なく紹介されている様々な知見は、心理実験や調査といった科学的な手法を用いて検討されてきたものです。心理実験などの手法を学ぶことによって、従来の知見がどうやって見出されてきたかを検討することができるようになります。そうすると、また新たな疑問をもつことができ、さらには、それを自分で実証的に確かめることが可能になります。こうした視点は、心理学を学ぶ上だけではなく、日常生活において個人的に疑問に思った

因果関係を確かめるという点において有用です。このスクーリングを通して、ぜひ因果関係を解明する視点と実験による技法を身につけていただければと思います。また、心理学実験では、実験者の教示の仕方や実験を行う態度が被験者に影響します（実験者効果）。実験者の態度についても配慮し、身に付けていただければと思います。

合わせて、心理学には心理学独自の知見のまとめ方があります。２つの実験結果をまとめることを通して、こうした研究報告書の書き方を身につけていただきたいと思います。

■講義内容・進め方

スクーリングでは、「認知的葛藤」、「ミュラーリヤー錯視」という２つの実験をグループに分かれて体験学習します。なお、実験の順番、担当者についてはグループにより、また受講会場により、変更になります（東京・札幌会場では「心理学実験ＩB」と連続して受講する場合３日間のスクーリングとなり、２日めに２つの実験を行います）。

実験ごとに、その実験についての概説を聞く、実験の実施、実験データの整理と分析、レポート作成という一連の作業を行います。

回数	テーマ	内容
1	オリエンテーション	心理学ではなぜ実験するのかを理解すると同時に、レポート記述の基本を学ぶ。
2	認知的葛藤①	認知的葛藤及び実験方法の説明。
3	認知的葛藤②	ストループ課題を用いた認知的葛藤の実験を実施する。
4	認知的葛藤③	データ分析と考察の観点を説明し、実験レポートを作成する。
5	ミュラーリヤー錯視①	さまざまな錯視現象を理解し、ミュラーリヤー錯視実験の概要を理解する。
6	ミュラーリヤー錯視②	実験実施。
7	ミュラーリヤー錯視③	錯視実験の意味を理解し、自分のデータに基づいた実験レポートを作成する。
8	まとめ	心理学実験ＩＡを終えて、あらためて実験計画・仮説検証の考え方、考察の仕方などを復習する。

▶実験１「認知的葛藤」

既に知っている事実と、新しく得られた情報との間にズレがあることを私たちが認識した場合に、そのいずれかを採用すべきか、という葛藤が生じます。それを認知的葛藤と呼びます。本実験ではストループ課題という古典的な手法を用いて、この認知的葛藤の様相を検討します。

▶実験２「ミュラー・リヤーの錯視」

私たちの知覚は、物理的世界のそのまま同じではありません。心理的世界の特性と物理的世界の特性にはずれがあります。このようなずれは、錯覚として体験されます。実験では、視覚における錯覚（錯視）を取り上げ、調整法によって、錯視の生じる条件について検討します。

※担当教員は変更になる場合があります。

■スクーリング　評価基準

スクーリング期間中に行った２つの実験のレポート１００％（それぞれ１００点満点の平均点）で評価します。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。また、『福祉心理学科スタディ・ガイド』のⅡ章を熟読してきてください（在宅学習９のポイントの７）。福祉心理学科以外の方は、「（様式 25）教科書特例配本希望届」を利用して配本申請をするか、ホームページ右側「福祉心理学科で学ぶために」の箇所から実験に関する記述を一読されるなど、心理学実験に関する予備知識をもっておいてください。

■スクーリングで必要なもの

筆記用具、定規（グラフを書くのに必要）、電卓、スマートフォンや携帯電話等ストップウォッチ機能がある機器、４色ボールペンを持参してください。

レポート学習

■在宅学習９のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	科学と実証 （教科書 1） 第１章）	心理学でなぜ実験を行うかを理解するとともに、因果関係と相関関係の違いや、因果関係を確かめることのむずかしさについて理解する。	小さな子どもが、数年間のうちに「身長も高くなり」同時に「知能も高くなった」からといって、「身長が高い方が知能が高い」という結論にはなりません。因果と相関の違いを理解することで、心理学で因果関係を確かめる重要性とむずかしさを考えてみましょう。
2	さまざまな実験法 （教科書 1） 第７章）	研究の目的によって使い分けられる、さまざまな実験法についての全体像をとらえる。	まずは、テキストの随所に出てくる「独立変数」「従属変数」について、事項索引（教科書 1）p.347～）で探して理解しましょう。その上で、それぞれの実験法の長所と短所、短所を補うための工夫などを考えてみましょう。
3	研究の実施 （教科書 1） 第 14 章）	心理学実験の研究計画や論文・レポート作成の際の章立てを理解する。	特に７節の「研究の立案と実施」については十分に理解し、研究計画や論文・レポート作成の基本について学んでおきましょう。
4	結果の解釈 （教科書 1） 第 15 章）	実験を行い、その結果を解釈する際の留意事項について理解する。	まず、６章の剰余変数に関する部分を読み直してみましょう。その上で、実験で扱わなかった要因の可能性などを考え、それを解決するためにはどうしたらよいかを考えてみましょう。
5	統計的分析 （教科書 1） 第 16 章）	実験の目的と実験計画に応じた統計的な分析の基本を学ぶ。統計の具体的手法を学ぶよりも、どのような場合にどのような統計が使えるかのイメージをとらえる。	難しいイメージのある統計的分析ですが、何を確かめるための分析かを考えることにより、身近なものに感じられます。統計的手法は実験の中心ではなく、実験結果をまとめる際の「道具」にすぎないことを念頭に置きながら全体のイメージをとらえましょう。
6	研究報告 （教科書 1） 第１７章）	心理学研究における論文、レポート執筆の基本について理解する。また、表１７-1 により、論文の標準的な構成について学ぶ。	論文、レポート執筆にはそれぞれの学問分野独特のルールや表現方法…いわば方言があります。一見面倒くさそうですが、これらの基本を身に着けることにより、必要な情報をわかりやすく的確に他者に伝える力がつき、心理学のレポート作成以外の場面においても応用できるはずです。

7	実験の意味・実験レポートの書き方 （教科書２）Ⅱ章）	実験の意味や具体的な実験レポートの書き方について学ぶ。	簡単な手続きにより、心理学的現象を実験によって確かめることが可能です。剰余変数や交互作用などの危険性もありますが、まずは簡単な実験により、心理学実験の面白さを理解することが大切です。
8	論文の作成 （教科書２） Ⅵ章 42第３版ではⅥ章４８）	学術論文の作成について学ぶ。	学術的な研究論文は、実験レポートの延長上にあります。実験や調査によって人間の心理を把握する面白さを実感できたならば、ぜひ卒業研究にもチャレンジして頂ければと思います。
9	各自が選んだ単位認定レポート課題	「実験 IB」を受講する方は、「実験 IB」のスクーリング終了後１課題選択。	選んだ課題のアドバイス・参考図書をよく読んで取り組んでください。

■事前レポート課題

「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

■アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。